

# 社会を見る目を養い、生きる力を身に付けるN I E

兵庫県立姫路飾西高等学校 校長 長谷川 宜 成

教諭 庄 司 麻希子

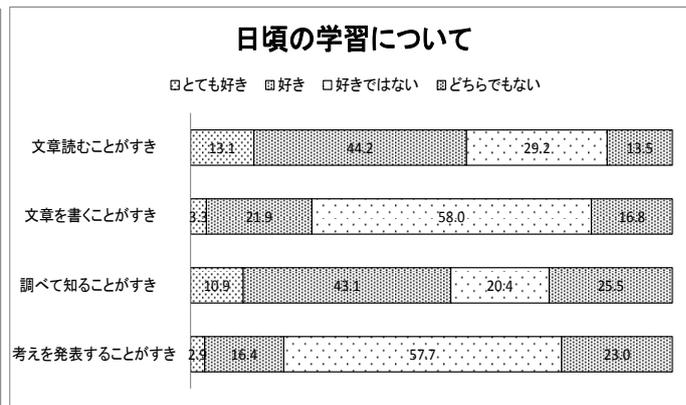
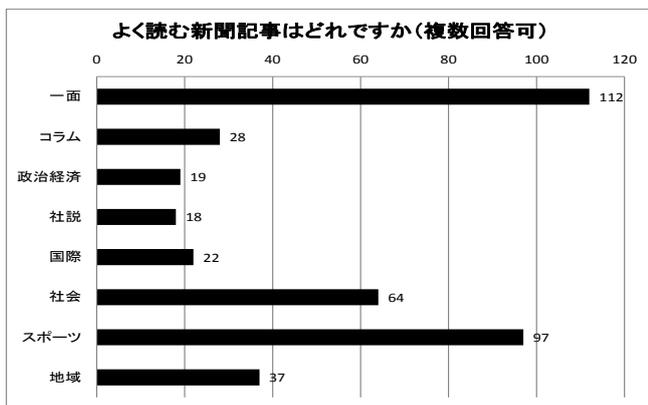
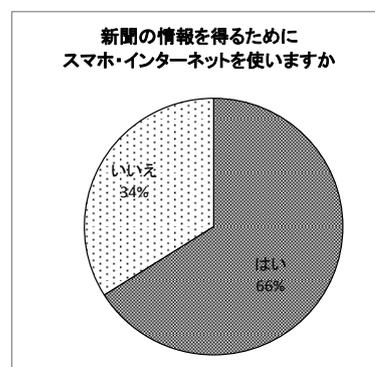
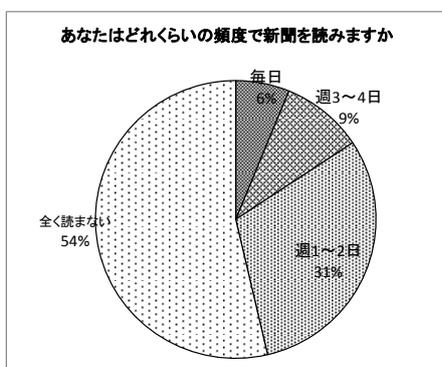
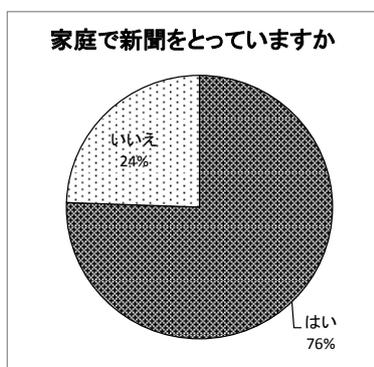
本校は平成 27 年度より N I E (Newspaper In Education)事業の指定を受け、今年は 2 年目にあたる。生徒が社会に関心を持ち、物事を多面的に捉え、表現する場として、本年も継続して N I E に取り組んできた。「総合的な学習の時間」を中心に、新聞を活用し学習してきた実践内容を報告する。

## 1. 生徒の実態把握 (生徒対象アンケート)

本校第 1 学年 278 人対象に新聞に関するアンケート調査を行った。アンケートは 2 部構成で、1 部は新聞を日常生活でどのように活用しているか、2 部では表現活動についてどのように感じているのか、調査を行った。

まず、1/4 の家庭で新聞を講読していない事実が明らかになった。また「新聞を全く読まない」もしくは「週 1～2 回程度」の生徒は 85% を占め、新聞を日常的に読む習慣がないことも判明した。今まで新聞で得ていたニュース等の内容はインターネットを活用して取得していることが分かり、ネット世代の生徒像が浮き彫りとなった。

関心を寄せる記事は、1 位が 1 面の記事、次いでスポーツ欄となった。



表現活動については、文章を読んだり調べたりすることが好きな生徒は多いが、文章を書いたり、自分の考えを表現することについて苦手と感じる生徒が多かった。インプットは苦にならないが、情報を収集し文章や意見として構築し、発表するアウトプットが苦手な生徒像が浮かんできた。

## 2. 実践の方針

アンケート集計結果を踏まえ、生徒の現状から本年度のNIE事業について以下のように実践の方針を立てた。

- (1) 社会の情勢について知るには、情報を手に入れるメディアは新聞以外に生徒の身近に存在する。最近ではスマホの普及に伴い、ニュース等も携帯端末から見ることができ、ニュース等の情報を得るメディアは新聞紙からネットに移行している状況が伺える。従って新聞を読む機会が減少している。新聞を活用するテーマ設定をし、新聞から情報を得て、考え表現する場を体験することより、生徒が新聞に親しみ活用方法を広げる機会を持つ。
- (2) 新聞には各社の編集方針が表れている。NIE事業により提供していただいた6社の新聞を活用し、数社の新聞を読み比べをし、それについて考えを表現することで、物事を多面的に捉え、社会を見る目を養う活動を行う。
- (3) 新聞の記事を活用し、グループでテーマを設定し、内容を深め、意見を交換した内容を表現することにより社会に関心を持ち表現力を養う活動を行う。
- (4) 教科で新聞を活用し、学習内容が社会とつながっている実感を持つ。

## 3. 新聞の閲覧

NIE事業では、実践校に朝日・神戸・産経・毎日・日本経済・読売の6社の新聞が4カ月無料で提供される。2学期は、NIEの活動が活発になるため、9月から12月は多くの新聞が届くように設定した。その新聞を活用し、各校工夫を凝らした実践を展開していく。1年生のホームルーム教室があるフロアに6紙を配置し、毎日気軽に新聞を開ける環境を作っている。気になる記事があるときなどに生徒は活用している。



## 4. NIE推進協議会による新聞記者派遣

9月29日(木)「総合的な学習の時間」の授業の一環として、毎日新聞社姫路支局の山縣文子記者に来校いただき講演会を開催した。1年生278人が参加し、「新聞の仕事について」というテーマで講演を聴いた。



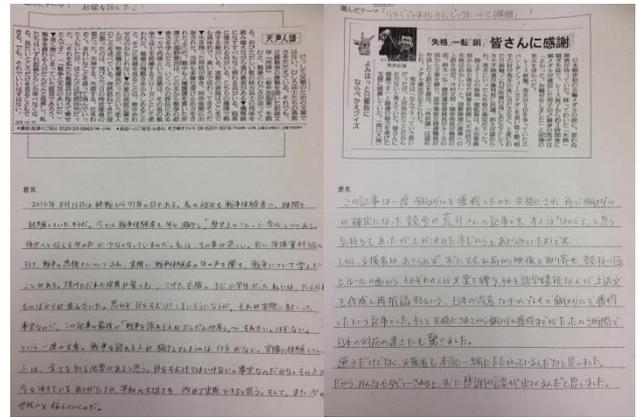
## 【生徒の感想】

調べるときやニュースを見るときにも、全てをうのみにするのではなく、何が正しくて何が間違っているかを自分で判断することも大切なのだと思った。ものの見方はたくさんあるので、自分と違う意見に対しても耳を傾けて、相手の気持ちを考えながら話を聞こうと思った。

## 5. 実践活動

### (1) 関心のある新聞記事の切り抜き（夏課題）

【学習活動】 テーマ（科学時事や社説など）に沿って記事を選び、切り取ったものをワークシートに貼り、興味を持った理由や意見を記入させる。



### (2) 教科における新聞活用

【学習活動】 現代社会の授業での活用

(例1) 現代の日本経済について異なる意見が掲載されている2つの新聞記事を読み比べ、日本の景気は良くなっているのか、良くなっていないのか考える。

(例2) 最近起こった出来事についての記事を読み、問題を読み解く。

### (3) 新聞作成

【学習活動】 各クラス5人前後のグループを作り、各テーマに沿った新聞記事を選び、内容を深め、意見を交換する。その内容を再び新聞形式でまとめることで、社会に関心を持ち表現力を養う。テーマは政治・経済・教育・社会・国際・環境・福祉・医療・健康から班で1つ選んだ。内容を共有するため、壁新聞形式でまとめ、生徒全員が読めるよう後日、廊下に掲示する。

GCC（グローバル・コミュニケーション・コース）では、国際関係の記事を選び、英語で新聞を作成し、SSC（サイエンス・サーベイ・コース）では、科学に関連した記事を選んだ。

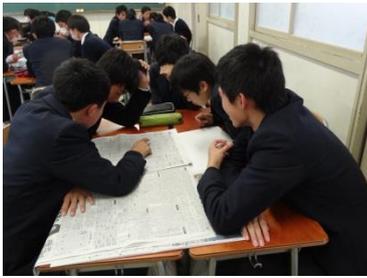
【内容例】

- ・アメリカ大統領選挙（ドナルド・トランプ）
- ・ネットトラブル、スマホのアプリ
- ・ノーベル賞（平和賞、生理学・医学賞） など

## 【生徒の感想】

今回、初めて新聞を作って、普段何気なく読んでいた新聞が、とても時間をかけて作られていること、まとめることは簡単ではないことが分かった。また、電池のことを自分たちで調べて、電池の偉大さに気づかされた。（テーマ 水電池）

私は、夏目漱石のアンドロイドについて調べた。今まで、文系と理系は全く別分野だと思っていたが、科学の分野であるロボットを利用して、文学作品の受け入れられ方、感じられ方を研究するというのは素晴らしい研究内容だと思った。私の家では新聞を取っていないので、今回の活動で、記事から読み取ったことをさらに深く発展させていくことで、自分自身の考え方がより深まって良かった。(テーマ AIロボット)



〈新聞を配布し、協議を始めた様子〉



〈実際の壁新聞掲示の様子〉

## 6. 実施の感想と今後の課題

本校では2年にわたりNIEの実践を進めてきた。本年度は、生徒にアンケートを取ることから始め、実態把握に努めた。活動をする中で、多くの生徒が新聞の内容を難しく感じており、継続的に記事に触れる必要があると実感した。現代社会の授業での記事活用は、生徒に考えさせることもでき、有効であった。新聞離れが進みつつある現状において、NIEの実践によって新聞に触れるとともに複数紙の読み比べという貴重な体験もできた。生徒は、新聞の良さも実感できたのではないかと思う。